

大分大学医学部附属病院

**薬剤師レジデントプログラム**

概要

第1版 2025年9月8日 作成

## 目次

1. 研修理念・基本方針 .....	3
2. プログラムの目的と内容.....	3
3. プログラムの管理運営のための責任者と組織 .....	5
4. 選考方法.....	5
5. 研修実施要項 .....	6
6. 時間外研修 .....	6
7. 研修基本スケジュール .....	7
8.研修の中断・未修了 .....	7
9.研修の修了基準 .....	7
10.研修の評価と修了証の発行.....	7
11.研修修了後の進路.....	7
12.専門薬剤師の養成について .....	8
13.問い合わせ先 .....	8

# 1. 研修理念・基本方針

## <理念>

薬物療法の実践的能力のみならず、コミュニケーション能力を有し、個々の患者に最適な薬物治療を提供できる、医療人としてのプロフェッショナリズムを備えた薬剤師を育成する。

## <基本方針>

- ① 安全で質の高い薬物治療を提供できる薬剤師を育成する。
- ② チーム医療の一員として自身の役割を理解し、多職種と連携できる薬剤師を育成する。
- ③ 全ての薬剤師が身に付けるべき基本的臨床能力と専門性、並びに科学的思考力・実践力が身につくプログラムを提供する。
- ④ 将来のキャリアパスなど薬剤師レジデントのニーズに対応したプログラムを提供する。

# 2. プログラムの目的と内容

実践的な臨床能力を備えチーム医療を実践できる薬剤師を養成する1年コースと、先端的な臨床能力を備え高度な専門性により質の高いチーム医療を実践できる薬剤師を養成する2年コースを提供する。

## (1) 1年コース

1. 研修期間：1年
2. 各部署の研修期間 ※詳細は、別紙（研修スケジュール）参照
  - ・ 調剤室：12ヶ月
  - ・ 製剤室（外来化学療法室も含む）：9ヶ月
  - ・ 服薬指導室：3ヶ月
  - ・ 薬物動態解析室：2ヶ月
  - ・ 医薬品情報管理室：2ヶ月
  - ・ その他（医療安全、集中治療部・手術室、総合患者支援センターなど）

## (2) 2年コース

1. 研修期間：2年
2. 各部署の研修期間 ※詳細は、別紙（研修スケジュール）参照
  - ・ 調剤室：12ヶ月
  - ・ 製剤室（外来化学療法室も含む）：9ヶ月
  - ・ 服薬指導室：15ヶ月
  - ・ 薬物動態解析室：4ヶ月
  - ・ 医薬品情報管理室：4ヶ月

- ・ 医療薬学研究：20 ヶ月
- ・ その他（医療安全、集中治療部・手術室、総合患者支援センターなど）

<各部署の研修内容>

・ 調剤室

- 1) 処方監査と疑義照会
- 2) 処方せんに基づく医薬品の調剤および安全管理
- 3) 適切な監査業務の実践
- 4) 外来患者への薬剤交付と服薬指導
- 5) 血液製剤など特殊薬剤の調剤と安全管理
- 6) 麻薬、毒薬、向精神薬などの薬剤の管理

・ 製剤室

- 1) 抗がん剤の処方監査（レジメンチェック）
- 2) 抗がん剤の調製・監査
- 3) 院内製剤の調製
- 4) 高カロリー輸液の調製・監査

・ 外来化学療法室

- 1) 患者への指導（曝露対策を含む）
- 2) 適切な支持療法の提案

・ 服薬指導室

- 1) 薬物治療についての評価・処方提案
- 2) 患者情報の把握
- 3) 患者への指導・患者教育
- 4) チーム医療への参画
- 5) 病棟における薬品管理
- 6) 病棟薬剤業務実施加算と薬剤管理指導の実践
- 7) 保険薬局との連携

・ 薬物動態解析室

- 1) TDM の実践
- 2) 測定結果の確認と評価
- 3) TDM 解析ソフトを用いた処方設計の実施
- 4) 薬物中毒物質のスクリーニング

・ 医薬品情報管理室

- 1) 医療従事者からの質問対応
- 2) 医薬品情報の収集と加工

・ 医療安全

- 1) インシデント事例の共有・分析
- ・集中治療部および手術室
  - 1) 患者の評価および対応
  - 2) 集中治療部および手術室での注射剤配合変化の対応
  - 3) 術後の疼痛管理
- ・総合患者支援センター
  - 1) 術前中止薬の鑑別
  - 2) 保険薬局および患者への対応
  - 3) トレーシングレポートの応需と対応

### 3. プログラムの管理運営のための責任者と組織

- (1) プログラム責任者：伊東 弘樹（薬剤部教授・薬剤部長）  
役割：大分大学医学部附属病院薬剤師レジデントプログラムを統括し、レジデントの採用と修了に関する主審査を行う。メンターおよびプリセプターを任命する。各レジデントの研修状況を把握すると共に個々のキャリア形成を促す。
- (2) 研修管理者：吉川 直樹（薬剤部准教授・副薬剤部長）  
役割：レジデントプログラムが円滑に実施されるよう研修の管理を行う。定期的にレジデントおよびメンターとの面談を実施し、必要に応じ助言やフィードバックを行う。研修期間内に各カリキュラムで定める到達目標が達成できるよう総合的な支援を行う。
- (3) 研修メンター：各種認定・専門・指導薬剤師等を取得している薬剤師  
原則レジデント 1 名に対して 1 名の研修メンターを配置する。ただし、状況に応じて研修メンターが複数のレジデントを担当しても差し支えない。  
役割：月に 1 回程度面談を行う。担当するレジデントの研修スケジュールの進行状況や評価等について確認する。また、レジデントレポート（1 回/月）や症例レポート（服薬指導室）を確認し、適宜修正後、研修管理者等と情報共有する。
- (4) 研究メンター：教員および研究テーマ発案者  
役割：担当するレジデントが適切に研究を実施できるよう支援すると共に、成果報告会や学会に向けてスケジュール管理をする。

### 4. 選考方法

書類審査と選抜試験（筆記（記述式）及び面接）に基づき、レジデント採用試験で決定する。

## 5. 研修実施要項

### (1) レジデントの指導体制

レジデントは研修スケジュールに従って薬剤部各部署の主任あるいは病棟担当薬剤師の指導のもとでカリキュラムに則った研修を行う。各部署主任あるいは病棟薬剤師は、レジデントの研修に責任を持ち自ら指導するか、他の薬剤師による研修指導を積極的に進めるよう計画し実行する。

### (2) レジデントレポート

当月の振り返りと翌月の目標・計画を立案する。

### (3) 症例レポート

レジデントは日常の病棟研修の中で積極的に薬学的介入ができた症例について概要を記載し、研修メンターの指導を受ける。服薬指導室の月に行う。プログラム責任者、研修管理者および副部長は、各レジデントが作成した症例報告書の内容を確認し、内容の精査をする。

### (4) 薬物療法講義

レジデントは、毎月開催される薬物療法講義に参加し、各専門分野の知識を習得する。

### (5) 医療薬学研究（2年コース）

レジデントは自身や指導薬剤師等が発案した Clinical Question に対する医療薬学研究に従事する。大分大学医学部附属病院で医療薬学研究を実施するためには、以下の条件を満たす必要がある。研修管理者と研究メンターは計画的に助言と指導を行う。

- ・レジデントは、院内で開催される臨床研究倫理セミナーを受講する。
- ・必要に応じ、レジデントは研究計画概要書、研究計画書、利益相反自己申告書、情報公開資料等を作成の上、プログラム責任者の了承を得て院内の倫理委員会へ申請する。

### (6) 自己研鑽

レジデントは、自己研鑽として学会や院内外で開催される各種研修会や講習会へ積極的に参加することが望まれる。

### (7) 薬剤師レジデント研修報告会での発表（年度末）

1年間のレジデント研修の成果を報告する。

### (8) 研究成果の発表と公表

日本薬剤師レジデントフォーラムやその他医療薬学関連学会において、研究成果をできるだけ発表し、論文化を目指す。

## 6. 時間外研修

- (1) 夜勤帯における研修：原則実施しないが、レジデントの希望には応じる。

## 7. 研修基本スケジュール

添付参照

## 8. 研修の中断・未修了

### (1) 研修の中断

研修の中断とはレジデントとしての採用期間の途中で研修を中止することであり、原則として大分大学医学部附属病院を退職することを指す。

レジデントの自己都合退職の場合は、少なくとも退職の 1 か月前に研修管理者に伝え、プログラム責任者へ退職届を提出する。

## 9. 研修の修了基準

### (1) 研修到達目標の達成度の評価

予め定められた研修期間を通じて各目標に対するレジデントの達成度を評価したうえで、修了証を発行する。

### (2) 薬剤師としての適性の評価

レジデントが以下に定める各項目に該当する場合は、修了と認めない。

- ・安心、安全な薬剤師業務の遂行ができない場合
- ・法令、規則が遵守できない場合

## 10. 研修の評価と修了証の発行

### (1) レジデントの評価と修了証の発行

プログラム責任者と研修管理者は以下の資料をもとに評価を行い、薬剤師臨床研修管理委員会に提示し、委員会において最終判定を行う。本プログラムの目標を達成したと考えられる薬剤師レジデントには、研修修了証を発行する。

### (2) 評価資料

- 1) 症例レポート
- 2) レジデントレポート
- 3) レジデント症例検討会の発表

## 11. 研修修了後の進路

レジデントプログラムに引き続き、当院での雇用（常勤）、大分大学大学院医学系研究科

博士課程（薬剤学講座）への進学、あるいは他機関への就職などがあげられる。当院（常勤）への雇用については、これまでの実績を考慮したうえで面接試験等を実施し、採用の可否を決定する。

## 12. 専門薬剤師の養成について

大分大学医学部附属病院薬剤部は下記の研修施設認定を取得しており、多分野で専門薬剤師を育成するための研修を提供している。

- ・ 日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師認定制度 研修施設（基幹施設）
- ・ 日本医療薬学会 がん専門薬剤師認定制度 研修施設（基幹施設）
- ・ 日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師認定制度 研修施設（基幹施設）
- ・ 日本医療薬学会 地域薬学ケア専門薬剤師 研修施設（基幹施設）
- ・ 日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師研修事業 研修施設
- ・ 日本臨床薬理学会 認定薬剤師制度 研修施設
- ・ 日本臨床腫瘍薬学会 がん診療病院連携研修 認定病院

## 13. 問い合わせ先

〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地

大分大学医学部附属病院薬剤部

TEL：097-586-6101